

2013年司法試験の結果発表を踏まえて

修了生諸君へのメッセージ

慶應義塾大学法科大学院修了生の2013年司法試験受験結果とそれに対するコメント

法科大学院を中心とする新たな法曹養成システムがスタートしてから既に10年目に入りましたが、ここ数年、修了生の就職難、法科大学院志願者数の激減等、法科大学院をめぐるきわめて厳しい状況が続いています。その中において、塾法科大学院においては、法律基本科目・法律実務基礎科目を通して、法曹に必要な基礎的能力を涵養するとともに、多彩な選択科目（基礎法学・隣接科目、展開・先端科目）を通して、新しい時代を担う多様な法曹に求められる国際性・学際性・先端性を身につけることを目指して、教職員、修了生、院生が一体となって、「社中一致」で、法曹養成に取り組んできました。

もとより、法科大学院教育の成果は、修了生の法曹界、より広く社会での活躍によって測られるべきものですが、新たな法曹養成システムが、法科大学院と司法研修所との連続したプロセスによる法曹教育であることに鑑みると、その中間点に位置づけられる司法試験の結果は、前半の法科大学院での法曹教育の成果を検証するための一つの重要な指標であることは疑いのない点です。

修了生の皆さん一人ひとりが、プロセスとしての法曹教育の中間点に立っているということを改めて認識し、合否にかかわらず、2013年の司法試験の結果を真摯に受け止め、自らの学習方法を批判的に捉え直し、気持ちを新たに、今後の学習計画を検討してほしいと思います。

合格者数や合格率を他法科大学院のそれらとの関係で単純に数量的に比較することは、必ずしも有意義な作業であるとは思われません。しかし、自己点検・評価という観点から客観的な数値を継続的に分析することは許されるでしょう。例えば、慶應義塾大学LSの修了生を全体としてみると、2013年の最終合格者数は201名で200名の大台を突破し、東京大学LS（197名）、早稲田大学LS（184名）、中央大学LS（177名）を押さえて、74校中の第1位でした。最終合格率（合格者/受験者）も56.8%で、東京大学LS（55.2%）、一橋大学LS（54.5%）、京都大学LS（52.4%）を押さえて、第1位となり、合格者数・合格率共に全国法科大学院中のトップという好成績を収め、昨年度の成績（合格者数186名、合格率53.6%とともに3位）を更新して、安定した成果を出すことができています。これらの数字は、慶應義塾大学LSの修了生諸君と教職員とが2007年度に改めて定められた厳格過ぎるとさえいわれる学習指導方針の下で弛まぬ精進を重ねてきたことの証です。特に、修了生諸君の健闘は、高く評価されるべきだと考えます。

法科大学院名	出願者	受験 予定者数	受験者数			最終合格者数			最終合格率 (合格者数 / 受験者 数)	
			総計	既修	未修	総計	既修	未修	全体	順位
慶應義塾大法科大学院	401	399	354	223	131	201	159	42	56.78%	1位
			H20卒	4	10		2	1		
			H21卒	6	16		2	1		
			H22卒	21	11		10	3		
			H23卒	42	32		28	13		
			H24卒	150	62		117	24		
東京大法科大学院	438	433	357	217	140	197	156	41	55.18%	2位
			H20卒	4	13		0	1		
			H21卒	7	19		1	5		
			H22卒	12	23		5	7		
			H23卒	38	33		20	10		
			H24卒	156	52		130	18		
一橋大法科大学院	144	144	123	86	37	67	52	15	54.47%	3位
			H20卒	2	2		1	0		
			H21卒	2	5		0	1		
			H22卒	3	4		0	4		
			H23卒	17	7		7	5		
			H24卒	62	19		44	5		
京都大法科大学院	282	281	246	169	77	129	105	24	52.44%	4位
			H20卒	1	5		0	2		
			H21卒	4	8		1	1		
			H22卒	15	17		9	1		
			H23卒	27	19		13	7		
			H24卒	122	28		82	13		
中央大法科大学院	528	527	442	300	142	177	140	37	40.05%	7位
			H20卒	7	16		0	0		
			H21卒	7	9		0	1		
			H22卒	29	21		14	4		
			H23卒	79	42		32	12		
			H24卒	178	54		94	20		
早稲田大法科大学院	573	572	479	166	313	184	96	88	38.41%	8位
			H20卒	1	24		0	1		
			H21卒		31			2		
			H22卒	2	43		2	12		
			H23卒	28	94		16	30		
			H24卒	135	121		78	43		

もっとも、昨年度までの最終合格率の推移を見ると、2006年＝63.41%、2007年＝63.83%、2008年＝56.51%と、60%前後であった合格率が、2009年に一挙に10.14%も低下して46.37%となり、2010年に50.42%まで4%以上の上昇(回復)を達成したものの、2011度はまた50%を割り込むというように、必ずしも安定していたわけではありませんでした(ちなみに全国平均の合格率は、2006年＝48.25%、2007年＝40.18%、2008年＝32.98%、2009年＝27.64%、2010年＝25.41%、2011年＝23.5%、2012年＝25.06%、2013年＝25.76%というように、本年度やや持ち直したとはいえ、低減の一途を辿っています)。しかしながら、塾法科大学院の最終合格率は、2012年度には53.60%、本年度は56.78%と50%台後半に達して、合格者数も、昨年に186名、本年度は201名を数えることとなり、過去最大の合格者数を達成できたことは、修了生各人がそれぞれの状況に在って着実な積上げを果たしてきているということができるといえるでしょう。とりわけ、本年度特筆すべきことは、2013年度の修了生の健闘であり、既修修了生は実に78.00%の合格率を達成しています。ちなみに、法科大学院よりも合格率が高いと喧伝されている予備試験の最終合格率は71.86%であり(もっとも、そもそもの受験者に対する合格率は1.3%にすぎません)、予備試験の合格率も遙かに凌駕する好成績となりました。皆さんのご努力の成果が花開いたことを喜んでいきます。

		2009年3月 修了者			2010年3月 修了者			2011年3月 修了者			2012年3月 修了者			2013年3月 修了者			
		既修	未修	合計	既修	未修	合計	既修	未修	合計	既修	未修	合計	既修	未修	合計	
合格者数	2009年(H21年)試験	98	22	120													120
	2010年(H22年)試験	31	8	39	98	30	128										167
	2011年(H23年)試験	5	3	8	26	10	36	96	20	116							160
	2012年(H24年)試験	2	2	4	11	7	18	28	13	41	100	21	121				184
	2013年(H25年)試験	2	1	3	2	1	3	10	3	13	28	13	41	117	24	141	201
	既修・未修別累計	138	36	174	137	48	185	134	36	170	128	34	162	117	24	141	832
	全体累計	174			185			170			162			141			
	合格者 / 当初出願者	76.65%			77.40%			76.58%			75.00%			63.22%			

上の表は、修了年毎の各年の新司合格者数ですが、修了者のほぼ75%が最終的には合格するという目安も、慶應義塾大学LSにおいては現実に達成できています。しかし、それでもなお、25%の修了生が合格するには至っていないという現実に直面し、塾法科大学院としては、さらにひとりでも多くの修了生の合格、そして一年でも早い合格を目指して、修了生・院生の努力に応えることができるように、一層の教育方法の改善・質の向上に努めていきたいと思っています。同時に、多様な法曹の養成という法科大学院制度の理念に立ち返って、「第四の法曹」と呼ばれる企業内リーガル・セクションでの活躍など、職域拡大と適切な進路指導にも努めていきたいと考えています。

下の表は、在学中のGPAと司法試験の合格との関係を示したものです。本年度も昨年までと同様、あるいはそれ以上に、両者の間に強いプラスの相関関係が表れています。本メッセージをご覧になっている在校生・入学予定者の皆さんには、塾法科大学院の授業を全面的に信頼し、授業およびその予習・復習を中心とした学習スタイルを身につけることをお勧めします。

なお、今年の未修生最終合格率は32.1 %であり、今年度の未修修了生に限ってみれば、38.7%の合格率を達成しており、他の法科大学院と比べても高い合格率を示しています。全体としてみれば、昨年に比べると2%の後退をしましたが、未修者の苦境がいわれる中であって、なお素晴らしい成果だと思われます。しかし、2008年3月修了の未修生の合格率が40.8 %に達していたこと、さらには、ここ数年の未修コースの志願者の減少も考慮に入れると、未修者コースの皆さんとともに、試行錯誤を繰り返して、より密度の濃い充実した未修者教育を実現したいと考えています。

GPA	2009年3月修了者			2010年3月修了者			2011年3月修了者			2012年3月修了者			2013年3月修了者		
	合格者	出願者	合格率	合格者	出願者	合格率	合格者	出願者	合格率	合格者	出願者	合格率	合格者	出願者	合格率
4.00～3.50	11	11	100	7	7	100	6	6	100	12	12	100	24	24	100
3.49～3.25	19	20	95	23	24	95.8	25	25	100	29	29	100	23	23	100
3.24～3.00	27	44	61.4	32	39	82.1	37	42	88.1	28	34	82.4	37	40	92.5
2.99～2.75	40	61	65.6	34	51	66.7	29	45	64.4	22	38	57.9	32	47	68.1
2.74～2.50	18	38	47.4	21	49	42.9	13	45	28.9	21	54	38.9	18	38	47.4
2.49～2.25	5	32	15.6	10	44	22.7	5	37	13.5	8	20	40.0	7	27	25.9
2.24～1.50	0	21	0	1	25	4	1	22	4.5	1	29	4.0	0	14	0
	120	227	52.9	128	239	53.6	116	222	52.3	121	216	56.0	141	223	63.2

最後になりますが、塾法科大学院として、修了生諸君が必要とするアフター・ケアのどこまでを提供することが必要であり、また、許されるのか、その境界線はすでに明らかになってきています。昨年度から、修了生として、正規授業科目および補習授業である「修了生支援ゼミ」の履修が可能となる「科目等履修生」と、自習室・ロッカー当の施設利用を認める「特別研修生」の制度が新設されています。また、本年度からは、修了生向けの各種進路情報も収集・公開に努めています。これらの詳細は、修了生向けのホームページで案内していますから、注意して見落とさないようにしてください。